

ウィメンズネット 函館を訪ねて



ドメスティックバイオレンス(DV)対応の民間シェルター「ウィメンズネット函館」を訪問。事務所が大変狭く、対応がしにくいというこ

とで、メンバーの一人函館市議の竹花さんに市議会の会議室を用意してもらい、理事長の古川満寿子さんにお話を聞く。ウィメンズネット函館は発足五年で、平成十三年十

一月にNPO取得。最初三人で立ち上げ、現在常駐は一人であるが、他に四人でローテーションを組んでいる。件数は七百四十一件、面接は延べ五百八十九件、シェルター入居数は二十四件、相談者の年齢は十代から七十代にまで及ぶ。運営費は函館市から年間五十万円、北海道から人件費として六十九万円の補助があるが、年会費三千元、三百名の会員からの収入が主なものである。

シェルターは四回ほど移転していて、現在は3DK、2DKのアパートを借りており、家賃はそれぞれ五万五千元と四万円だそうである。財政的には大変苦勞されているようであるが、制度的には被害者保護が確立している。

例えば、道内で函館市以外からウィメンズネット函館に入所した場合、シェルターを出るまでは、逃げてきた都市、つまり被害者が住んでいた所の行政が医療費と生活費を出し、シェルターを出た後は、函館市が生活保護で支援する。住民票問題、子供の学校など、岡山市で壁にぶつかって出来ないとされている部分はクリアされている。これは函館市だけの施策ではなく、北海道内の行政で統一されているそうである。さすが全国初の民間シェルター「札幌おんなのスペース・オン」を擁する北海道だけのことはある。

札幌、函館の他、旭川、室蘭、北見、帯広、苫小牧と道内に七カ所ある民間シェルターが月に一度、シェルターネット会議を開いて情報交換を行っている。警察や医療関係なども良い連携がとれているようである。

函館市も昨年から「函館市女性に対する暴力対策関係機関会議」を発足し、研修、情報交換など様々な活動を展開している。また、昨年十月、DVと児童虐待は関連が深いということ、DV被害者保護のための関連機関連絡会議と児童虐待防止対策連絡協議会を「道南地域児童虐待・配偶者暴力防止対策連絡協議会」として一元化している。DVに巻き込まれた子供達の保護は最重要課題で連絡協議会を一元化することで、緊密かつ迅速に連携を取ることが出来、岡山市としても見習うべき部分であるといえるだろう。

シェルターの滞在日数や保護命令申請協力、同伴者の年齢(最高十八歳)をみても、

やはり民間シェルターだからこそ対応出来ていることが多く、公的施設との連携で被害者の十分な保護が可能になるといえる。岡山県ではDVの相談件数が全国七位で、潜在被害者が多いことが窺え、一日も早い自立支援までの施設の整備が望まれるところである。

【若井たつこ】大阪生まれ。帝塚山学院大卒業後、大阪府立病院救急医局秘書、代議士秘書を経て、平成七年、岡山市議会議員に初当選。福祉・医療・環境問題に取り組む。